



被災地でうどん店
出店を高松市支援

厨房機器など贈呈

東日本大震災の被災地・岩手県陸前高田市に讃岐うどん店を出店し、現地の雇用創出を目指すプロジェクトを支援しようと、高松市は26日、活動を進めている県中小企業家同友会に、厨房機器や食器など約100万円相当を寄贈した。

写真

同会は被災地支援の一環として、うどん店の出店を計画。運営は岩手県中小企業家同友会の会員企業が担い、収益は復興支援に充てる。店名は「びっぴ家さぬき」で、現地の住民を10人ほど雇用。うどん店を展開するたも屋（高松市）が3月8日から現地での取り扱い方などを指導し、10日にプレオープンする予定。

職員派遣などで陸前高田市を支援する高松市は、同会の計画に賛同。開店に必要なゆで麺機やのれん、看板などを贈った。贈呈式で大西市長から激励された同プロジェクトの松田哲也代表は「被災地の人に働く喜びと明日への希望を持ってもらえたら」と話した。

同会は開店資金（約300万円）の協力を募っている。協力金は一口千円から。問い合わせは同会事務局（087（869）3770）。